

7章 場合の数と数列

BASIC

432 (1) 504 を素因数分解すると,

$$504 = 2^3 \times 3^2 \times 7$$

よって, 約数の個数は,

$$(3+1)(2+1)(1+1) = 4 \cdot 3 \cdot 2 = 24$$

24 個

(2) 216 を素因数分解すると,

$$216 = 2^3 \times 3^3$$

よって, 約数の個数は,

$$(3+1)(3+1) = 4 \cdot 4 = 16$$

16 個

(3) 2100 を素因数分解すると,

$$2100 = 2^2 \times 3 \times 5^2 \times 7$$

よって, 約数の個数は,

$$(2+1)(1+1)(2+1)(1+1) = 3 \cdot 2 \cdot 3 \cdot 2 = 36$$

36 個

433 $x + 4y \leq 20$ より, $x \leq 20 - 4y$

i) $y = 1$ のとき

$1 \leq x \leq 16$ であるから, 16 個

ii) $y = 2$ のとき

$1 \leq x \leq 12$ であるから, 12 個

iii) $y = 3$ のとき

$1 \leq x \leq 8$ であるから, 8 個

iv) $y = 4$ のとき

$1 \leq x \leq 4$ であるから, 4 個

よって, 和の法則より

$$16 + 12 + 8 + 4 = 40 \text{ 個}$$

434 (1) $x + y + z = 8$ より, $x + y = 8 - z$

i) $z = 1$ のとき, $x + y = 7$

これを満たす x, y の組は, 4 通り

ii) $z = 2$ のとき, $x + y = 6$

これを満たす x, y の組は, 5 通り

iii) $z = 3$ のとき, $x + y = 5$

これを満たす x, y の組は, 4 通り

iv) $z = 4$ のとき, $x + y = 4$

これを満たす x, y の組は, 3 通り

v) $z = 5$ のとき, $x + y = 3$

これを満たす x, y の組は, 2 通り

よって, 和の法則より

$$4 + 5 + 4 + 3 + 2 = 18 \text{ 個}$$

(2) $x + y + z = 8$ より, $x + y = 8 - z$

i) $z = 0$ のとき, $x + y = 8$

これを満たす x, y の組は, 9 通り

ii) $z = 1$ のとき, $x + y = 7$

これを満たす x, y の組は, 8 通り

iii) $z = 2$ のとき, $x + y = 6$

これを満たす x, y の組は, 7 通り

iv) $z = 3$ のとき, $x + y = 5$

これを満たす x, y の組は, 6 通り

v) $z = 4$ のとき, $x + y = 4$

これを満たす x, y の組は, 5 通り

vi) $z = 5$ のとき, $x + y = 3$

これを満たす x, y の組は, 4 通り

vii) $z = 6$ のとき, $x + y = 2$

これを満たす x, y の組は, 3 通り

viii) $z = 7$ のとき, $x + y = 1$

これを満たす x, y の組は, 2 通り

ix) $z = 8$ のとき, $x + y = 0$

これを満たす x, y の組は, 1 通り

よって, 和の法則より

$$9 + 8 + 7 + 6 + 5 + 4 + 3 + 2 + 1 = 45 \text{ 個}$$

435 赤, 青, 白のさいころの目の数を x, y, z で表すと, $x + y = 2z$ となる整数の組を考えればよい. ただし, $1 \leq x \leq 6, 1 \leq y \leq 6, 1 \leq z \leq 6$,

i) $z = 1$ のとき, $x + y = 2$

これを満たす x, y の組は, 1 通り

ii) $z = 2$ のとき, $x + y = 4$

これを満たす x, y の組は, 3 通り

iii) $z = 3$ のとき, $x + y = 6$

これを満たす x, y の組は, 5 通り

iv) $z = 4$ のとき, $x + y = 8$

これを満たす x, y の組は, 5 通り

v) $z = 5$ のとき, $x + y = 10$

これを満たす x, y の組は, 3 通り

vi) $z = 6$ のとき, $x + y = 12$

これを満たす x, y の組は, 1 通り

よって, 和の法則より, $1 + 3 + 5 + 5 + 3 + 1 = 18$

18 通り

436 (1) 与式 $= 5 \cdot 4 \cdot 3$

$$= 60$$

(2) 与式 $= 7 \cdot 6$

$$= 42$$

(3) 与式 $= 99$

$$(4) \text{ 与式} = \frac{100 \cdot 99 \cdot 98 \cdots 11}{100 \cdot 99 \cdot 98 \cdots 11 \cdot 10}$$

$$= \frac{1}{10}$$

437 (1) 与式 $= 3 \cdot 2 \cdot 1$

$$= 6$$

(2) 与式 $= 6 \cdot 5 \cdot 4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1$

$$= 720$$

$$(3) \text{ 与式} = \frac{20 \cdot 19 \cdot 18 \cdots 3 \cdot 2 \cdot 1}{18 \cdot 17 \cdot 16 \cdots 3 \cdot 2 \cdot 1}$$

$$= 20 \cdot 19 = 380$$

$$(4) \text{ 与式} = \frac{(2n+1)2n(2n-1)\cdots 3\cdot 2\cdot 1}{2n(2n-1)\cdots 3\cdot 2\cdot 1} = 2n+1$$

438 両端の子音は、3個の文字 b, c, d の中から2個を選んで並べればよいので、 ${}_6P_2$ 通りの並べ方があり、この各の並べ方に対して、間の3個の文字の並べ方は3!通りあるので、積の法則より
 ${}_3P_2 \times 3! = 3 \cdot 2 \times 3 \cdot 2 \cdot 1 = 36$ 通り

439 (1) 13枚のハートの中から3枚を選んで並べればよいので
 ${}_{13}P_3 = 13 \cdot 12 \cdot 11 = 1716$ 通り

(2) ハート以外のカードの枚数は、 $13 \times 3 = 39$ 枚で、この中から3枚を選んで並べればよいので
 ${}_{39}P_3 = 39 \cdot 38 \cdot 37 = 54834$ 通り

440 (1) 5個の数字を、4個並べる重複順列であるから
 $5^4 = 625$ 個

(2) 1の位には2,4のいずれかの数字を並べればよいので、2通り。この各の並べ方に対して、残りの3つの位の数字は、5個の数字の重複順列であるから
 $2 \times 5^3 = 250$ 個

441 (1) それぞれのさいころに6通りの目の出方があるので
 $6^3 = 216$ 通り

(2) 奇数の目は、1,3,5の3通りで、それぞれのさいころに、この3通りの目の出方があるので
 $3^3 = 27$ 通り

(3) 小の目の一の位の数字は1,3,5の3通りあり、その各に対して、残りの位の目の出方はそれぞれ6通りあるので
 $3 \times 6^2 = 108$ 通り

442 (1) 与式 $= \frac{5 \cdot 4}{2 \cdot 1} = 10$

(2) 与式 $= \frac{10 \cdot 9 \cdot 8 \cdot 7}{4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1} = 210$

(3) 与式 $= {}_{11}C_{11-9} = {}_{11}C_2 = \frac{11 \cdot 10}{2 \cdot 1} = 55$

(4) 与式 $= \frac{n(n-1)}{2 \cdot 1} = \frac{n(n-1)}{2}$

(5) 与式 $= {}_nC_{n-(n-1)} = {}_nC_1 = n$

443 (1) 9枚の中から3枚を選ぶ組み合わせだから
 ${}_9C_3 = \frac{9 \cdot 8 \cdot 7}{3 \cdot 2 \cdot 1} = 84$ 通り

(2) 偶数のカードは、2,4,6,8の4枚で、この中から3枚を選ぶ組み合わせだから
 ${}_4C_3 = {}_4C_1 = 4$ 通り

(3) 3枚のカードの数字の和が偶数になるのは

• 3枚とも偶数の場合
 • 1枚が偶数で、2枚が奇数の場合がある。

i) 3枚とも偶数の場合
 (2)より、4通り

ii) 1枚が偶数で、2枚が奇数の場合
 偶数のカード1枚の選び方は、 ${}_4C_1$ 通り
 奇数のカードは、1,3,5,7,9の5枚で、この中から2枚を選ぶ組み合わせは
 ${}_5C_2$ 通り

よって
 ${}_4C_1 \cdot {}_5C_2 = 4 \cdot \frac{5 \cdot 4}{2 \cdot 1} = 4 \cdot 10 = 40$ 通り

i), ii) は同時には起こらないので
 $4 + 40 = 44$ 通り

444 (1) 1班と2班の合計13人の中から5人を選ぶ組み合わせだから

$${}_{13}C_5 = \frac{13 \cdot 12 \cdot 11 \cdot 10 \cdot 9}{5 \cdot 4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1} = 1287 \text{ 通り}$$

(2) 1班6人の中から2人選ぶ組み合わせの数は、 ${}_6C_2$ 通り
 この各の選び方に対して、2班7人の中から3人選ぶ組み合わせの数は、 ${}_7C_3$ 通り

よって
 ${}_6C_2 \cdot {}_7C_3 = \frac{6 \cdot 5}{2 \cdot 1} \cdot \frac{7 \cdot 6 \cdot 5}{3 \cdot 2 \cdot 1} = 525$ 通り

(3) すべての選び方から、1班の人が一人もいない(2班の人だけ)の場合と2班の人が1人もいない(1班の人だけ)の場合を引けばよい。

2班の人だけになる選び方は、 ${}_7C_5$ 通り
 1班の人だけになる選び方は、 ${}_6C_5$ 通り
 すべての選び方は、(1)より、1287通りであるから
 $1287 - ({}_7C_5 + {}_6C_5) = 1287 - ({}_7C_2 + {}_6C_1) = 1287 - \left(\frac{7 \cdot 6}{2 \cdot 1} + 6\right) = 1287 - (21 + 6) = 1287 - 27 = 1260$ 通り

445 (1) 左辺 $= {}_9C_4 + {}_9C_5 = ({}_8C_3 + {}_8C_4) + ({}_8C_4 + {}_8C_5) = {}_8C_3 + 2{}_8C_4 + {}_8C_5 =$ 右辺

(2) (1)より
 左辺 $= {}_8C_3 + 2{}_8C_4 + {}_8C_5 = ({}_7C_2 + {}_7C_3) + 2({}_7C_3 + {}_7C_4) + ({}_7C_4 + {}_7C_5) = {}_7C_2 + {}_7C_3 + 2{}_7C_3 + 2{}_7C_4 + {}_7C_4 + {}_7C_5 = {}_7C_2 + 3{}_7C_3 + 3{}_7C_4 + {}_7C_5 =$ 右辺

(3) (2)より

$$\begin{aligned} \text{左辺} &= {}_7C_2 + 3{}_7C_3 + 3{}_7C_4 + {}_7C_5 \\ &= ({}_6C_1 + {}_6C_2) + 3({}_6C_2 + {}_6C_3) \\ &\quad + 3({}_6C_3 + {}_6C_4) + ({}_6C_4 + {}_6C_5) \\ &= {}_6C_1 + {}_6C_2 + 3{}_6C_2 + 3{}_6C_3 \\ &\quad + 3{}_6C_3 + 3{}_6C_4 + {}_6C_4 + {}_6C_5 \\ &= {}_6C_1 + 4{}_6C_2 + 6{}_6C_3 + 4{}_6C_4 + {}_6C_5 \\ &= \text{右辺} \end{aligned}$$

446 4が3個, 5が3個, 6が2個あるので

$$\frac{8!}{3!3!2!} = \frac{8 \cdot 7 \cdot 6 \cdot 5 \cdot 4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1}{3 \cdot 2 \cdot 1 \times 3 \cdot 2 \cdot 1 \times 2 \cdot 1} = 560 \text{通り}$$

447 (1) 玉の総数は, $3 + 2 + 3 + 2 = 10$ 個であるから

$$\frac{10!}{3!2!3!2!} = \frac{10 \cdot 9 \cdot 8 \cdots 3 \cdot 2 \cdot 1}{3 \cdot 2 \cdot 1 \times 2 \cdot 1 \times 3 \cdot 2 \cdot 1 \times 2 \cdot 1} = 25200 \text{通り}$$

(2) 赤玉3個を1組として, この1組と青玉2個, 白玉3個, 黒玉2個を並べる順列の総数は

$$\frac{8!}{1!2!3!2!} = \frac{8 \cdot 7 \cdot 6 \cdot 8 \cdot 5 \cdot 4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1}{1 \times 2 \cdot 1 \times 3 \cdot 2 \cdot 1 \times 2 \cdot 1} = 1680 \text{通り}$$

448 (1) 6人による円順列なので

$$(6-1)! = 5! = 5 \cdot 4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1 = 120 \text{通り}$$

(2) 男子だけが丸く並ぶときの場合の数は, 3人による円順列なので

$$(3-1)! = 2! \text{通り}$$

この各の並び方に対して, 3カ所ある男子と男子の間に女子を順番に並べていけばよいので, その並び方は, $3!$ 通り
よって, $2! \times 3! = 12$ 通り

449 (1) 与式 $= {}_5C_0 a^5 + {}_5C_1 a^4 b + {}_5C_2 a^3 b^2$

$$\begin{aligned} &+ {}_5C_3 a^2 b^3 + {}_5C_4 a b^4 + {}_5C_5 b^5 \\ &= 1 \cdot a^5 + 5a^4 b + 10a^3 b^2 \\ &\quad + 10a^2 b^3 + 5ab^4 + 1 \cdot b^5 \\ &= a^5 + 5a^4 b + 10a^3 b^2 \\ &\quad + 10a^2 b^3 + 5ab^4 + b^5 \end{aligned}$$

(2) 与式 $= \{1 + (-x)\}^7$

$$\begin{aligned} &= {}_7C_0 1^7 + {}_7C_1 1^6(-x) + {}_7C_2 1^5(-x)^2 \\ &\quad + {}_7C_3 1^4(-x)^3 + {}_7C_4 1^3(-x)^4 \\ &\quad + {}_7C_5 1^2(-x)^5 + {}_7C_6 1(-x)^6 \\ &\quad + {}_7C_7 (-x)^7 \\ &= 1 \cdot 1 + 7 \cdot (-x) + 21x^2 + 35 \cdot (-x^3) \\ &\quad + 35x^4 + 21 \cdot (-x^5) + 7x^6 + 1 \cdot (-x^7) \\ &= 1 - 7x + 21x^2 - 35x^3 \\ &\quad + 35x^4 - 21x^5 + 7x^6 - x^7 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} (3) \text{ 与式} &= {}_6C_0 x^6 + {}_6C_1 x^5 \cdot \frac{1}{x} + {}_6C_2 x^4 \cdot \left(\frac{1}{x}\right)^2 \\ &\quad + {}_6C_3 x^3 \cdot \left(\frac{1}{x}\right)^3 + {}_6C_4 x^2 \cdot \left(\frac{1}{x}\right)^4 \\ &\quad + {}_6C_5 x \cdot \left(\frac{1}{x}\right)^5 + {}_6C_6 \left(\frac{1}{x}\right)^6 \\ &= 1x^6 + 6x^4 + 15x^4 \cdot \frac{1}{x^2} + 20x^3 \cdot \frac{1}{x^3} \\ &\quad + 15x^2 \cdot \frac{1}{x^4} + 6x \cdot \frac{1}{x^5} + 1 \cdot \frac{1}{x^6} \\ &= x^6 + 6x^4 + 15x^2 + 20 + \frac{15}{x^2} + \frac{6}{x^4} + \frac{1}{x^6} \end{aligned}$$

450 展開式の一般項は

$$\begin{aligned} {}_8C_r (2x)^{8-r} (-5)^r &= {}_8C_r 2^{8-r} x^{8-r} \cdot (-5)^r \\ &= {}_8C_r 2^{8-r} \cdot (-5)^r x^{8-r} \end{aligned}$$

$x^{8-r} = x^5$ となるのは, $8-r = 5$ より, $r = 3$ のときである.

よって, x^5 の係数は

$$\begin{aligned} {}_8C_3 2^{8-3} \cdot (-5)^3 &= \frac{8 \cdot 7 \cdot 6}{3 \cdot 2 \cdot 1} \cdot 2^5 \cdot (-125) \\ &= 56 \cdot 32 \cdot (-125) \\ &= -224000 \end{aligned}$$

CHECK

451 972を素因数分解すると, $972 = 2^2 \times 3^5$

よって, 約数の個数は,

$$(2+1)(5+1) = 3 \cdot 6 = 18$$

18個

452 $2x + 4y \leq 32$ より, $x + 2y \leq 16$ であるから, $x \leq 16 - 2y$

i) $y = 1$ のとき

$1 \leq x \leq 14$ であるから, 整数解の組は, 14個

ii) $y = 2$ のとき

$1 \leq x \leq 12$ であるから, 整数解の組は, 12個

iii) $y = 3$ のとき

$1 \leq x \leq 10$ であるから, 整数解の組は, 10個

iv) $y = 4$ のとき

$1 \leq x \leq 8$ であるから, 整数解の組は, 8個

v) $y = 5$ のとき

$1 \leq x \leq 6$ であるから, 整数解の組は, 6個

vi) $y = 6$ のとき

$1 \leq x \leq 4$ であるから, 整数解の組は, 4個

vii) $y = 7$ のとき

$1 \leq x \leq 2$ であるから, 整数解の組は, 2個

よって, 和の法則より

$$14 + 12 + 10 + 8 + 6 + 4 + 2 = 56 \text{個}$$

453 (1) 与式 $= \frac{8 \cdot 7 \cdot 6!}{8 \cdot 7}$

$$= 6! = 6 \cdot 5 \cdot 4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1 = 720$$

(2) 与式 $= \frac{9 \cdot 8 \cdot 7 \cdot 6}{4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1} = 126$

(3) 与式 $= 8 \cdot 7 \cdot 6 = 336$

454 1の位には2, 4, 6のいずれかの数字を並べればよいので, 3通り. この各の並べ方の対して, 残りの5つの位の数字の並べ方は, 5個の数字の順列であるから

$$3 \times 5! = 3 \cdot 120 = 360 \text{個}$$

455 ハートが2枚になる場合と3枚になる場合がある。また、ハート以外のマークの枚数は、 $52 - 13 = 39$ 枚である。

i) ハートが2枚の場合

2枚のハートが置かれる場所は

- 1枚目と2枚目
- 1枚目と3枚目
- 2枚目と3枚目

の3通りがあり、この各に対して、ハートの並び方と、ハート以外の並び方は

$${}_{13}P_2 \times {}_{39}P_1 = (13 \cdot 12) \times 39 \\ = 6084$$

よって、 $3 \times 6084 = 18252$

ii) ハートが3枚の場合

13枚のハートから3枚を選び並べればよいので

$${}_{13}P_3 = 13 \cdot 12 \cdot 11 \\ = 1716$$

i), ii) は同時には起こらないので

$$18252 + 1716 = 19968 \text{ 通り}$$

456 1の位には1, 3のいずれかの数字を並べればよいので、2通り。この各の並び方に対して、残りの3つの位の数字は、3個の数字の重複順列であるから

$$2 \times 3^3 = 54 \text{ 個}$$

457 例えば目の出方が、1, 1, 2, 2, 2, 1, 2のような場合が何通りあるかを考えればよい。

7回の中から、1の目が出るのが何回目かを3個選べばよいので(例の場合だと、1回目, 2回目, 6回目)

$${}_{7}C_3 = \frac{7 \cdot 6 \cdot 5}{3 \cdot 2 \cdot 1} = 35 \text{ 通り}$$

または、2の目が出るのが何回目かを4個選んでもよい。

[別解]

目の出方を表す1, 1, 2, 2, 2, 1, 2のような数の並びは、3個の1と4個の2を並べたものであるから、同じものを含む順列の考え方で

$$\frac{7!}{3!4!} = 35 \text{ 通り}$$

458 奇数の札は、1, 3, 5, 7の4枚であり、この中から3枚を選べばよいので

$${}_4C_3 = {}_4C_1 = 4 \text{ 通り}$$

459 2班から選ぶ人数を3人, 4人, 5人の場合に分けて考える。

i) 3人の場合

2班の7人の中から3人, 1班の6人の中から2人を選べばよいので

$${}_7C_3 \times {}_6C_2 = \frac{7 \cdot 6 \cdot 5}{3 \cdot 2 \cdot 1} \times \frac{6 \cdot 5}{2 \cdot 1} \\ = 35 \cdot 15 = 525$$

ii) 4人の場合

2班の7人の中から4人, 1班の6人の中から1人を選べばよいので

$${}_7C_4 \times {}_6C_1 = {}_7C_3 \times 6 \\ = 35 \cdot 6 = 210$$

iii) 5人の場合

2班の7人の中から5人を選べばよいので

$${}_7C_5 = {}_7C_2 \\ = \frac{7 \cdot 6}{2 \cdot 1} = 21$$

i), ii), iii) は同時には起こらないので

$$525 + 210 + 21 = 756 \text{ 通り}$$

460 黒玉2個を1組とし、この1組と他の8個の玉の並び方は、同じものを含む順列の考え方で

$$\frac{9!}{3!2!3!1!} = 5040 \text{ 通り}$$

461 男子2人を1組とし、この1組と女子3人の円順列を考えると

$$(4-1)! = 3! = 6$$

この各の並び方に対して、男子2人の並び方は、 $2! = 2$ 通りずつあるので

$$6 \times 2 = 12 \text{ 通り}$$

462 与式 $= {}_5C_0 (2x)^5 + {}_5C_1 (2x)^4 \cdot (-1) + {}_5C_2 (2x)^3 \cdot (-1)^2$

$$+ {}_5C_3 (2x)^2 \cdot (-1)^3 + {}_5C_4 (2x) \cdot (-1)^4 + {}_5C_5 (-1)^5 \\ = 1 \cdot 32x^5 + 5 \cdot 16x^4 \cdot (-1) + 10 \cdot 8x^3 \cdot 1$$

$$+ 10 \cdot 4x^2 \cdot (-1) + 5 \cdot 2x \cdot 1 + 1 \cdot (-1)$$

$$= 32x^5 - 80x^4 + 80x^3 - 40x^2 + 10x - 1$$

463 展開式の一般項は

$${}_8C_r (3x)^{8-r} (-2)^r = {}_8C_r 3^{8-r} x^{8-r} \cdot (-2)^r \\ = {}_8C_r 3^{8-r} \cdot (-2)^r x^{8-r}$$

$x^{8-r} = x^3$ となるのは、 $8-r=3$ より、 $r=5$ のときである。

よって、 x^5 の係数は

$${}_8C_5 3^{8-5} \cdot (-2)^5 = {}_8C_3 \cdot 3^3 \cdot (-32) \\ = \frac{8 \cdot 7 \cdot 6}{3 \cdot 2 \cdot 1} \cdot 27 \cdot (-32) \\ = 56 \cdot 27 \cdot (-32) = -48384$$

STEP UP

$$464 (1) \text{ 右辺} = n \cdot \frac{(n-1)!}{\{(n-1)-(r-1)\}!}$$

$$= \frac{n(n-1)!}{(n-r)!}$$

$$= \frac{n!}{(n-r)!} = {}_n P_r = \text{左辺}$$

$$(2) \text{ 右辺} = \frac{(n-1)!}{(n-1-r)!} + r \cdot \frac{(n-1)!}{\{(n-1)-(r-1)\}!}$$

$$= \frac{(n-1)!}{(n-r-1)!} + \frac{r(n-1)!}{(n-r)!}$$

$$= \frac{(n-r)(n-1)!}{(n-r)(n-r-1)!} + \frac{r(n-1)!}{(n-r)!}$$

$$= \frac{(n-r)(n-1)!}{(n-r)!} + \frac{r(n-1)!}{(n-r)!}$$

$$= \frac{(n-r)(n-1)! + r(n-1)!}{(n-r)!}$$

$$= \frac{(n-1)! \{(n-r) + r\}}{(n-r)!}$$

$$= \frac{(n-1)! \cdot n}{(n-r)!}$$

$$= \frac{n!}{(n-r)!} = {}_n P_r = \text{左辺}$$

$$\begin{aligned} (3) \text{ 右辺} &= \frac{n}{n-r} \cdot \frac{(n-1)!}{r!(n-1-r)!} \\ &= \frac{n(n-1)!}{r!(n-r)(n-r-1)!} \\ &= \frac{n!}{r!(n-r)!} = {}_n C_r = \text{左辺} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} (4) \text{ 右辺} &= \frac{n-r+1}{r} \cdot \frac{n!}{(r-1)!\{n-(r-1)\}!} \\ &= \frac{(n-r+1)n!}{r(r-1)!(n-r+1)!} \\ &= \frac{n!}{r!(n-r)!} = {}_n C_r = \text{左辺} \end{aligned}$$

465 2人をA, Bとし, Aが勝つことをa, Bが勝つことをbで表す.

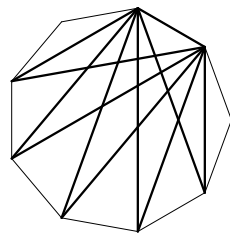
(1) 7回目にAが勝って決着がつくのは
 $b a b a b a a$
 という場合のみで, 7回目にBが勝って決着がつくのは
 $a b a b a b b$
 という場合のみであるから, 2通り

(2) 7回目にAが勝って決着がつくのは
 $b a a a a$
 という場合で, $a a a a a$ の部分では決着がつかないので
 $a a b$
 $a b a$
 $b a a$
 $b a b$
 $b b a$
 の5通りがある. また, 7回目にBが勝って決着がつく場合も同じ数だけあるので
 $5 \times 2 = 10$ 通り

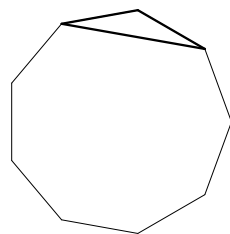
466 (1) 9個の頂点の中から3個を選べば1つの三角形ができるので

$${}_9 C_3 = \frac{9 \cdot 8 \cdot 7}{3 \cdot 2 \cdot 1} = 84 \text{ 通り}$$

(2) 図のように, 正九角形と1辺を共有する三角形は, 1個の辺に対して5通りずつあるので
 $5 \times 9 = 45$ 通り



(3) 図のように, 正九角形と2辺を共有する三角形は, 1個の頂点に対して1通りずつあるので全部で9通り.



以上より, 正九角形と辺を共有しない三角形の個数は
 $84 - (45 + 9) = 30$ 通り

467 7個の数字のうち,使わない1個の数字によって場合分けをする.

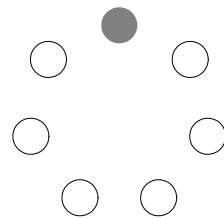
i) 1を使わない場合
 1, 2, 2, 2, 3, 3の6個の数字の中に, 1が1個, 2が3個, 3が2個あるので, $\frac{6!}{3!2!} = 60$ 通り

ii) 2を使わない場合
 1, 1, 2, 2, 3, 3の6個の数字の中に, 1が2個, 2が2個, 3が2個あるので, $\frac{6!}{2!2!2!} = 90$ 通り

iii) 3を使わない場合
 1, 1, 2, 2, 2, 3の6個の数字の中に, 1が2個, 2が3個, 3が1個あるので, $\frac{6!}{2!3!} = 60$ 通り

以上より, $60 + 90 + 60 = 210$ 通り

468 (1) 図のように, 1個の赤玉を固定して考える.

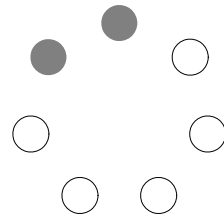


残りの6個の置き場所の中から, 青玉2個を置く場所を決めればよいから

$${}_6 C_2 = \frac{6 \cdot 5}{2 \cdot 1} = 15 \text{ 通り}$$

白玉4個を置く場所を考え, ${}_6 C_4$ としても同じ結果が得られる.

(2) 青玉2個が隣り合う場合を考える.



図のように, 青玉2個を隣り合わせて置き, 残りの5個の置き場所から, 赤玉1個を置く場所(または, 白玉4個を置く場所)を決めればよいから, 青玉2個が隣り合う並べ方は

$${}_5 C_1 = 5$$

よって, 青玉2個が隣り合わない並べ方は

$$15 - 5 = 10 \text{ 通り}$$

469 (1) 千の位が1, すなわち, 1 となる自然数は, に並ぶ数字を考えて

$${}_5 P_3 = 5 \cdot 4 \cdot 3 = 60 \text{ 個}$$

千の位が2, 3の場合も同様なので, 千の位が3以下の数は, $60 \times 3 = 180$ 個あるから

$$181 \text{ 番目} \rightarrow 4123$$

$$182 \text{ 番目} \rightarrow 4125$$

よって, 4125は, 182番目

(2) 千の位が1である数は60個, 千の位が2以下である数は120個なので, 100番目の数の千の位は2である.

21 となる数は, ${}_4 P_2 = 12$ 個あるから, ここまでの数の総数は, $60 + 12 = 72$

23 となる数は、 ${}_4P_2 = 12$ 個あるから、ここまでの数の総数は、 $72 + 12 = 84$

24 となる数は、 ${}_4P_2 = 12$ 個あるから、ここまでの数の総数は、 $84 + 12 = 96$

97 番目 \rightarrow 2513

98 番目 \rightarrow 2514

99 番目 \rightarrow 2516

100 番目 \rightarrow 2531

よって、100 番目の数は、**2531**

470 $(1+x)^n$ を、二項定理を用いて展開すると

$$\begin{aligned} (1+x)^n &= {}_nC_0 1^n + {}_nC_1 1^{n-1}x + {}_nC_2 1^{n-2}x^2 + \dots \\ &\quad \dots + {}_nC_{n-1} 1^1 x^{n-1} + {}_nC_n x^n \\ &= {}_nC_0 + {}_nC_1 x + {}_nC_2 x^2 + \dots + {}_nC_n x^n \end{aligned}$$

すなわち

$${}_nC_0 + {}_nC_1 x + {}_nC_2 x^2 + {}_nC_3 x^3 + \dots + {}_nC_{n-1} x^{n-1} + {}_nC_n x^n = (1+x)^n \dots \textcircled{1}$$

(1) ①において、 $x=1$ とすると

$${}_nC_0 + {}_nC_1 \cdot 1 + {}_nC_2 \cdot 1^2 + {}_nC_3 \cdot 1^3 + \dots + {}_nC_{n-1} \cdot 1^{n-1} + {}_nC_n \cdot 1^n = (1+1)^n$$

すなわち

$${}_nC_0 + {}_nC_1 + {}_nC_2 + {}_nC_3 + \dots + {}_nC_{n-1} + {}_nC_n = 2^n$$

(2) ①において、 $x=-1$ とすると

$${}_nC_0 + {}_nC_1 \cdot (-1) + {}_nC_2 \cdot (-1)^2 + {}_nC_3 \cdot (-1)^3 + \dots + {}_nC_{n-1} \cdot (-1)^{n-1} + {}_nC_n \cdot (-1)^n = \{1 + (-1)\}^n$$

すなわち

$${}_nC_0 - {}_nC_1 + {}_nC_2 - {}_nC_3 + \dots + (-1)^n {}_nC_n = 0$$

(3) n を偶数として、(1), (2) の結果の辺々を加えると

$$\begin{aligned} 2{}_nC_0 + 2{}_nC_2 + 2{}_nC_4 + \dots + 2{}_nC_{n-2} + 2{}_nC_n &= 2^n \\ 2({}_nC_0 + {}_nC_2 + {}_nC_4 + \dots + {}_nC_{n-2} + {}_nC_n) &= 2^n \end{aligned}$$

これより

$${}_nC_0 + {}_nC_2 + {}_nC_4 + \dots + {}_nC_{n-2} + {}_nC_n = \frac{2^n}{2}$$

よって、 ${}_nC_0 + {}_nC_2 + {}_nC_4 + \dots + {}_nC_{n-2} + {}_nC_n = 2^{n-1}$

471 (1) 展開式の一般項は

$$\begin{aligned} {}_{11}C_r (x^2)^{11-r} \left(-\frac{1}{x}\right)^r &= {}_{11}C_r (-1)^r x^{22-2r} x^{-r} \\ &= {}_{11}C_r (-1)^r x^{22-3r} \end{aligned}$$

$x^{22-3r} = x$ となるのは、 $22-3r=1$ より、 $r=7$ のときである。よって、 x の係数は

$$\begin{aligned} {}_{11}C_7 \cdot (-1)^7 &= {}_{11}C_4 \cdot (-1) \\ &= \frac{11 \cdot 10 \cdot 9 \cdot 8}{4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1} \cdot (-1) = -330 \end{aligned}$$

(2) 展開式の一般項は

$$\begin{aligned} {}_{10}C_r \left(\frac{1}{x}\right)^{10-r} (2x)^r &= {}_{10}C_r 2^r (x^{-1})^{10-r} x^r \\ &= {}_{10}C_r 2^r x^{-10+r} x^r \\ &= {}_{10}C_r 2^r x^{2r-10} \end{aligned}$$

$x^{2r-10} = x^2$ となるのは、 $2r-10=2$ より、 $r=6$ のときである。よって、 x の係数は

$$\begin{aligned} {}_{10}C_6 \cdot 2^6 &= {}_{10}C_4 \cdot 64 \\ &= \frac{10 \cdot 9 \cdot 8 \cdot 7}{4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1} \cdot 64 = 13440 \end{aligned}$$

(3) 展開式の一般項は

$$\begin{aligned} {}_8C_r x^{8-r} \left(-\frac{1}{x^2}\right)^r &= {}_8C_r (-1)^r x^{8-r} (x^{-2})^r \\ &= {}_8C_r (-1)^r x^{8-r} x^{-2r} \\ &= {}_8C_r (-1)^r x^{8-3r} \end{aligned}$$

$x^{8-3r} = x^{-1}$ となるのは、 $8-3r=-1$ より、 $r=3$ のときである。よって、 x の係数は

$${}_8C_3 (-1)^3 = \frac{8 \cdot 7 \cdot 6}{3 \cdot 2 \cdot 1} \cdot (-1) = -56$$

472 (1) 鉛筆を \quad で表し、これを A, B, C, D の 4 人に分けるとする。図のように、10 個の \quad と仕切り 3 個を並べることを考えればよい。この場合は、A 2 個、B 3 個、C 0 個、D 5 個であることを表している。

| | |

このような並べ方の総数は、 \quad と $|$ の計 13 個を並べる場所を用意し、これらの中から $|$ を置く場所 3 個 (または、 \quad を置く場所 10 個) の選び方の総数となるから

$${}_{13}C_3 = \frac{13 \cdot 12 \cdot 11}{3 \cdot 2 \cdot 1} = 286 \text{ 通り}$$

[別解]

同じものを含む順列の考え方を利用すれば、10 個の \quad と 3 個の $|$ を 1 列に並べるときの順列の数になるので

$$\frac{13!}{10!3!} = 286 \text{ 通り}$$

(2) 下の図のように、10 個の \quad を並べる。

↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑

矢印のある 9 個の位置の中から仕切りを置く場所を 3 個選べばよいので

$${}_9C_3 = \frac{9 \cdot 8 \cdot 7}{3 \cdot 2 \cdot 1} = 84 \text{ 通り}$$

473 (1) まず、A, B のどちらかが空になってもよいとした場合を考える。ボールはすべて区別できるので、1 個目のボールを入れる箱の選び方は A, B 何れかであるから 2 通りある。2 個目のボールも同様に 2 通りの選び方があるので、すべてのボールの箱への入れ方の総数は、 2^8 通りである。

この中には、A, B それぞれが空になってしまう 2 通りの場合が含まれているので、求める場合の数は

$$2^8 - 2 = 256 - 2 = 254 \text{ 通り}$$

(2) まず、A, B, C の何れかが空になってもよいとした場合を考える。ボールはすべて区別できるので、1 個目のボールを入れる箱の選び方は A, B, C 何れかであるから 3 通りある。2 個目のボールも同様に 3 通りの選び方があるので、すべてのボールの箱への入れ方の総数は、 3^8 通りである。

この中には、A, B, C のうちどれか 1 個が空になる場合と、3 個のうち、2 個が空になる場合 (すべてのボールが 1 個の箱に入る場合) が含まれている。

A, B, C のうちどれか 1 個が空になる場合は、(1) より、 $254 \times 3 = 762$ 通り。

また、すべてのボールが 1 個の箱に入る場合は 3 通りあるから、求める場合の数は

$$3^8 - (762 + 3) = 6561 - 765 = 5796 \text{ 通り}$$

474 (1) 下の図のように、10個の を並べる .

↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑

矢印のある 9 個の位置の中から 2 個選び、そこに仕切り置く . 例えば、下の図のように仕切りを入れた場合は、 $10 = 2 + 5 + 3$ を表す .

| |

よって、3 個の数を用いる場合は、 ${}_9C_2 = \frac{9 \cdot 8}{2 \cdot 1} = 36$ 通り

- (2) (1) と同様に考えて
 8 個の数を用いる場合は、 ${}_9C_7 = {}_9C_2 = \frac{9 \cdot 8}{2 \cdot 1} = 36$ 通り
 9 個の数を用いる場合は、 ${}_9C_8 = {}_9C_1 = 9$ 通り
 10 個の数を用いる場合は、 ${}_9C_9 = 1$ 通り
 よって、8 個以上の数を用いる場合は
 $36 + 9 + 1 = 46$ 通り

- (3) 求める場合の数は
 ${}_9C_1 + {}_9C_2 + {}_9C_3 + \cdots + {}_9C_8 + {}_9C_9$
 となるが、470 より
 ${}_9C_0 + {}_9C_1 + {}_9C_2 + {}_9C_3 + \cdots + {}_9C_8 + {}_9C_9 = 2^9$
 であるから
 ${}_9C_1 + {}_9C_2 + {}_9C_3 + \cdots + {}_9C_8 + {}_9C_9 = 2^9 - {}_9C_0$
 $= 512 - 1$
 $= 511$ 通り

